



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第17号

発行:レムナントキリスト教会

価格:100円（送料込みで200円）

〔目次〕

- ◎聖書からのメッセージ:不義をもって真理をはばむ エレミヤ
- ◎高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(13)「馬の系統図の偽り」
- ◎箴言から学ぼう!:人の心を試す神さま
- ◎詩篇を読む:心を高ぶらせてしまうときに・・・
- ◎キリストを信じた体験談:信じてからのこと フィベ
- ◎聖書に関する偉人のことば:チャールズ・ディケンズ
- ◎ご案内:聖書贈呈、聖書通信講座

<聖書からのメッセージ> 不義をもって真理をはばむ by エレミヤ

〔聖書箇所〕ローマ人への手紙1:18-20

1:18というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。

1:19 なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。

1:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。

今回は、「不義をもって真理をはばむ」という題でメッセージをします。

社会に出て、大人になってよく分かることは、この世の中では、真理や正しいことが必ずしも

通用するわけではない、ということです。逆にインチキや偽りが大手を振ってまかり通ることがよくあります。

インチキがまかり通る、ということでは、最近では、例の原発事故のことがあります。政府の発表では、もう原発問題は終息した、とのこと。汚染水もコントロールされている、と首相がオリンピック誘致の演説で語っていました。でも、どうも実際はそうではないようです。福島原発の現状に関して、幻灯社「騙されたあなたにも責任がある」小出裕章（京大原子炉実験所助教）著によれば、あの爆発で原発自体が爆発し、放射能の容器が爆発し、中身の放射能原料が飛び出してメルトダウンしているとのこと。

不義をもって真理をはばむ エレミヤ

日本中で放射能汚染のないところなど、もう存在しない、とのこと。政府の説明と全然話が違います。しかし、このような肝心なことに関しては、新聞もテレビも何も報じません。ここでは政府や東電の都合により、真理が覆い隠されているわけです。私たちはこのように真理が覆い隠され真実が報じられないこと、そのインチキや嘘に怒りを感じます。

さて、ここで私は、しかし、と申し上げたいのですが、そういう私たち自身にも真理を隠して、真実を覆い隠していることはないでしょうか？それを考えてみたいのです。

冒頭のテキストでは、「**というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。**」と書かれています。そして、その「**不義をもって真理をはばむ**」とは、神の存在や、その性質などに関する事柄のようです。この件に関して日本の状況はどうでしょうか？真理を覆い隠しているのでしょうか？いないのでしょうか？私の理解では、残念ながら、日本の国は神が存在する、しない、ということに関して、真理が意図的に覆い隠されているように見えます。

このバイブルの連載で伝えていきますように、進化論は真理からかけ離れており、多くの偽りが含まれている理論です。でも、どういうわけか日本においては、進化論が唯一の真理のように教科書に記載され、人間は偶然に進化した神など存在しない、ということが正しい真理のようにまかり通っています。

しかし、このようなこの国の人々の歩みに関して、「**不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されている。**」と聖書は語っていることを知ってください。進化論という不義やインチキをもって、真理をはばんでいることに関して神は怒りをもっておられ、その怒りが天から啓示されているのです。

この国では神はいない、存在していないものと定められ、あたかも公式見解のように学校の

教科書では、神の存在を否定する進化論が必須になっています。日本人で学校に通うなら、誰もそれを学ばないわけにはいかないのです。

さて、そのようにして、神はいない、存在しないと決め付けて、それでこの国で何か良いことが起きたのでしょうか？日本は益々明るい未来に向かっているのでしょうか？

私の目には良いことなど何も起きていないように思えます。日本は今回の原発の事故で、国土の隅々まで、放射能汚染されてしまった国になってしまいました。取り返しのつかないダメージを受けたのです。戦争中にも世界で初の被爆国になったのに、また、このような放射能の害を受けてしまったのです。よりによって、日本ばかり次から次に害を受けているようです。どう見ても、この国は、神に祝福されても喜ばれてもいないように思えます。

さらに最近の政治のことも見ても、あまり良い方向には行っていないように思えます。日本は戦争をしない国、ということだったのですが、最近戦争法案が可決され、日本もアメリカに追随して戦争のために、自衛隊を送るようになってしまいました。戦争が身近になってしまったのです。他にも貧困の増大とか、日本の農業を壊滅させるTPPの合意だとか、悪いことが日本にはめじろおしに進んでいるように思えます。なぜ、このような悪いことばかり起きるのでしょうか？

その理由として、上記の「**神の怒りが天から啓示されている**」とのことばが良い説明になります。日本は神の怒りを買っているのです。会社の社長は会社で一番偉い人であり、社員の給料やら、出世にも権限を持っています。それで、やはり、会社に出勤し、途中で社長に会ったら挨拶くらいはするべきです。間違えても、知らないふりをしたり、シカトすべきではないのです。人間である社長に関してもそうです。

まして、私たちは、私たちの体や心、さらに食べる米も野菜も造り、かつ、この地球を住みやすい環境として私たちのために用意しておられる神さまに対して、シカトして、良いことばかり起きるのでしょうか？

不義をもって真理をはばむ エレミヤ

人間の社長に挨拶はしても、さらに大事な方、私たちの命をも、肉体をも支配し、手に握っておられる方、神を全く無視し、あたかも存在しないかのように扱い、神を見事に無視をし、ずっとシカトして、それで、神からの祝福や恵みや助けを受けられると期待出来るでしょうか？人間でも挨拶しなかったり、皆でシカトしたりすれば、後で、その人に倍返しされるかも知れません。神さまだったら大丈夫なのでしょう。か？たしかに神さまは忍耐強い方なのですが、しかし、そんなことをして良いことは起きないでしょう。神は、理論でも想像でもなく、しかし、実際に存在しておられる方であり、この方をないがしろにして良いことなど期待出来ないのです。

国になぞらえて書きましたが、私たち個々の人生においても、同じであることを知ってください。人間関係でも、人にしてもらったことに感謝出来ない恩知らずな生き方だとろくなことは起きないです。まして、人以上に我々に良くしてくださっている方の存在を認めず、神はいないのだ、存在しないのだ、と偽りを語ったり、信じたりしていたら、ろくなことは起きないのです。

こうは言いますが、かくいう私も以前は神を信じておらず、神は存在していない、と信じていましたので、人に偉そうなことは言えません。私はまだ学生だったとき、聖書や神さまのことを教えてくれる教会のキャンプに行きました。そして、その一週間のキャンプの間、自分なりに考えたのです。神はいるようにも思えるし、いない、と言え、いないようにも思えます。それで、キャンプで薦められたように、自分ひとりで神に祈ってみたのです。「神さま、本当にあなたがおられるなら、私に分かるようにしてください。」と。このように祈ったことは本当に良かったです。その後、神さまがおられる、ということがすんなり私の心に落ちてきて、受け入れられたからです。

そのようにして、私は神の存在を信じ、キリストを信じるようになったのですが、それは、良い道、祝福の道でした。神からの祝福を受けるようになりました。良い仕事も与えられ、経済も家庭も神の祝福の中で守られるようになって

たのです。神を神として崇め、この方を認め、人生を歩んできましたが、結果、自分の人生で大いに神からの助けと祝福を受けるようになったのです。人間の社長であっても、自分をシカトする社員より、近寄って笑顔で挨拶する社員がかわいいように、神さまもその存在を認め、神として認める人に祝福をくださるのです。人間はどうしても、目に見える環境や人に目が行きがちなのですが、聖書は目に見えない神について語ります。そして、私たちの人生に起きる良いことも悪いことも、じつは目に見えない神が支配し、導かれることを語ります。以下のことばの通りです。

〔聖書箇所〕ローマ人への手紙2:6-8

2:6 神は、ひとりひとりに、その人の行ないに従って報いをお与えになります。

2:7 忍耐をもって善を行ない、栄光と誉れと不滅のものをも求める者には、永遠のいのちを与え、

2:8 党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されるのです。

ここに書かれていますように、「**神は、ひとりひとりに、その人の行ないに従って報いをお与えに**」なのです。私たちの人生の祝福も災いも、それぞれの行いによって変わってくるのです。ですので、もし、私たちの人生や歩みが不本意だったり、トラブル続きだったりしたら、その時は、目に見えることのみを目を留めず、目に見えない神との関係を考え直してください。もし、私たちが真理に従わないで不義に従うなら、神の怒りと憤りを受けるようになる、と書かれている上記ことばを思い出してください。そして、真理に従い、神を神として認め、崇めることに心を向けましょう。きっと祝福があります。



福島原発の爆発

高ぶりを打ち砕く:進化論の誤り(13)馬の系統図の偽り

人はどこから誕生したのか?その問題に関して聖書は「神が人を創造した」と述べます。しかし、日本においては、学校で進化論が教えられており、人は猿から進化したと説きます。では、その進化論は正しいのか?それをこのシリーズで見えています。

進化の証拠としてよく取り上げられるものに、馬の系統図があります。この系統図は、小さくて3本の足指を持つヒラコテリウムという動物から、いくつかの中間段階を経て、大きくて一本の足指を持つ現代のウマ、エクウスに至るといふ進化図です。この系統図は本当に真実で、進化を証明しているものなのでしょうか?考えてみましょう。その答えはノーです。この図は馬の進化を説明していません。以下理由を述べます。

もし、この系統図が真実であり、馬がこの系統図の順番で進化したとするなら、化石の地層がこの順番に見つかるはずですが、すなわち、古いものが下、新しいものが上の地層で見つかるはずなのです。しかし、実際はそうなっていません。進化の始めであるはずの、ヒラコテリウムの化石が新しい地層である表層の近くから発見されています。また、現在の馬の化石と並んで発見されることもあります。要するに全然、系統図と地層の順番が矛盾しているのです。そもそも、これらの化石がこの系統図の通りに連続的に発見された場所は今まで、世界中どこにもありません。それもそのはず、この系統図は、進化論の推測に基づいて並べられたものに過ぎないからです。肋骨の数の変化が異常です。

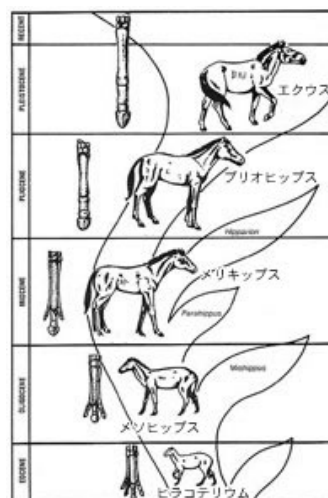
もし、この図の通りに進化したとすると、肋骨の数は始めのヒラコテリウムでは18対、次のヒラコテリウムとメソヒップスの中間型とされるオロヒップスでは15対、また、その後のプリオヒップスでは19対、そして現在の馬では18対と変化します。要するに18対—15対—19対—18対と、肋骨の数が減ったり、増えたりして、進化している、ということになります。そんなおかしい進化はありません。

同じく、腰椎の骨の数も、初めは6で、中間で8、そしてまた、6と増えたり減ったりの変化をすることになります。これもおかしいです。教科書などでは、体の大きさや足指の数、大臼歯が強調され、これらの変化については載せられていません。要するに進化を肯定しない事実は載せていないのです。不公平な記載なのです。

ヒラコテリウムからエクウスまでの進化の系統では、体の大きさが次第に大きくなって行くと言われています。しかし現在の馬の大きさは、最も大きいクライズデール種(高さ:163~183cm)から、ファラベラ種(高さ:71~86cm)と様々です。現在、様々な大きさの馬が存在するのです。したがって、大きさの変化をもって進化の過程と論ずることには論理的根拠はありません。

ヒラコテリウムは系統図の他の動物とは著しく異なっており、馬ではなくハイラックス(イワダヌキ)の変異系であると考えられます。要するに馬でないものが馬の進化系統図に入っているのです。

結論として、馬の系統図は、進化論が正しいという仮定のもとに、様々な問題を無視して強引に作られた図に過ぎません。調べればすぐ化けの皮がはがれる浅薄な議論なのです。



意図的に作られた馬の系統図

箴言から学ぼう！:人の心を試す神さま

【聖書箇所】箴言17:3

17:3 銀にはるつぼ、金には炉、人の心をためす(KJV 訳:試す、試験する)のは主。

世の中でも、試験がありますよね？特に学生時代はそうだと思います。中間試験、期末試験をはじめ、学校へ進学するための試験、また、就職するための試験等、様々な試験があります。著者は、こと、学業に関して、全くと言ってよいほど不得手でしたが・・・しかし、一応その時々試験には臨んでいまして・・・そのたびに「うーん。憂鬱だなあ。」なんていう風に思っていました。それで・・・今はおおよそ学業とか試験とは無縁の生活を送っておりまして、「さあ、一安心」なんて息を吐いていた著者でしたが・・・けれども、上記聖句には、なんと、主(神さま、イエスさま)が、心をためす、なんていうことが書いてあることに気が付いて、少しびっくりです。神さまが私たちのことをテスト(試験)することに関しては、エレミヤ牧師が時折礼拝のメッセージにおいて語っていることなのですが、自分で改めて聖書を読んでみたときに、「ああ、本当のことなんだなあ」と頷くものがありました。

それで・・・神さまはどんな風に試験をするのか？ということに関して、エレミヤ牧師の体験談から、お話をさせていただきたいと思います。

エレミヤ牧師がレムナントキリスト教会の牧師になる前のことですが・・・以前通っていた教会でのことです。その教会には「神学校」(牧師や献身者〔ボランティア:教会のお手伝いする人〕を目指す人の養成所)が併設されていて、そこでエレミヤ牧師も聖書のことばに関しての学びをされていたそうです。ところがある時、エレミヤ牧師は教会で語られている教えの一部疑問を抱くようになり・・・その時に聖書を熱心に読んで、さらに神さまにお祈りをしたところ、どうも教会で語られているほうが「おかしいのでは？」という結論に達したそうです。無論、教会で語られているすべてのことに対して、そのように思われたわけではなく、ほんのごく一部のことだったのですが、しかし、そのことは、枝葉末節のことではなく、場合によっては「天国」に入れるかどうかを大きく左右するものでした。

そして「神学校」では、「メッセージの訓練」という授業もあり・・・その授業というのは、そこに属している人たちが、交代で聖書のことばからメッセージをする、というものだったのですが・・・当然エレミヤ牧師も順番が回ってくるわけです。その

時に、聖書のことばからハッキリとメッセージを語ったのですが、しかし、教会で言われていることと異なっていたため、何年か後に、「神学校」を追い出され、はたまた、「もう、教会には来ないください。」と言われたそうです。勿論当時のエレミヤ牧師の心中は複雑だったそうです。聖書のことばからきちんとメッセージすべきか？それとも、教会の言うことに合わせるべきなのか？いずれかの選択をしなければならなかったわけですが・・・神さまが言っていることを正しく語るなら、牧師から叱責を受けてしまうかも知れない、周囲の人たちからも変な目で見られてしまうかも知れない、なんていうことが頭をよぎったそうです。しかし、だからと言って、聖書に書かれていないことを喋ると、今度は神さまから怒られてしまうし・・・そういう意味ではかなり悩んだそうです。けれども、このことは、後になって振り返ってみると、「主(神さま、イエスさま)からの試験」だったのでは？ということに気付かれたそうです。そして、エレミヤ牧師は神さまの言われることに従ったので、結果として教会を出ることになってしまったのですが・・・しかし、その後、どうなったのか？と言うと、今現在のレムナントキリスト教会の牧師になることが出来ました。しかもそれだけではなく、以前にも増して、聖書のことばに関して大事なことを、神さまから色々教えていただけるようになったそうです。そして、今もなお、そのことは続いていらっしやるそうです。

そうなんです。エレミヤ牧師の体験もそうですし、冒頭の聖句においても、神さまはたしかに私たちの心を試験されるお方ではあるのですが・・・しかし、単に試して、それで終わるのではなく、きちんとクリアするときに、エレミヤ牧師のように、「幸い」(キリスト教用語:祝福、恵み)をも、神さまは用意してくださるのです。よろしければ、こういったこともご理解いただくと幸いに思います。



神さまのテストに臨む

詩篇を読む:心を高ぶらせてしまうときに・・・

〔聖書箇所〕詩篇12:3

12:3 主が、へつらいのくちびると傲慢(KJV訳:高慢)の舌とを、ことごとく断ち切ってくださいように。

この世の価値観はともかく、聖書において、こと神さまにおきましては「傲慢」はご法度である！と上記聖句では述べております。「**傲慢の舌とを、ことごとく断ち切ってくださいように。**」と書かれている通りでありまして、どうも神さまは、「傲慢」を忌み嫌っているようです。さて、今回は「傲慢」とか「高ぶり」ということに関して見てみたいと思うのですが、別の箇所にも同じようなことが書かれていますので、よろしければ参照してみましよう。

〔聖書箇所〕I ペテロ5:5

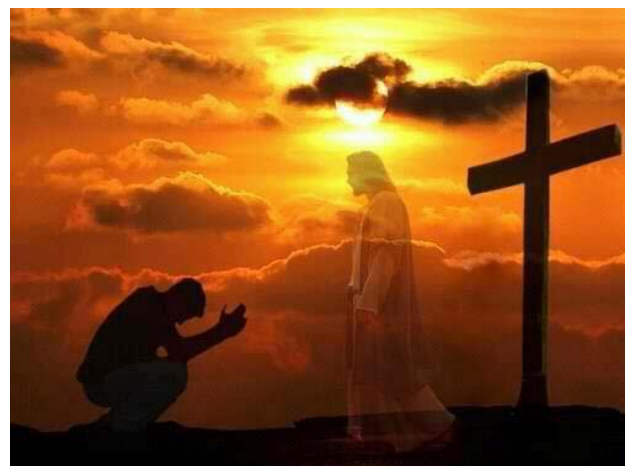
5:5 同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜(KJV訳:謙遜、卑下)を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し(KJV訳:抵抗する、無視する、撃退する)、へりくだる(KJV訳:卑下する、謙遜な)者に恵みを与えられるからです。

ここで神さまは、高ぶる者に敵対する、ということを言われています。「**敵対**」のところはKJV訳では、「抵抗する、無視する、撃退する」という単語が使われていました。そうなんです。私たちが傲慢になったり、心を高ぶらせてしまうというときに、目には見えない神さまから抵抗されたり、無視されたり、はたまた撃退されてしまうのです。これって恐ろしいことですよ？神さまは愛のお方であることは、聖書に書かれているのですが、しかしそうではあっても、私たちが高ぶっている、傲慢である、という風に神さまから見なされてしまった場合に、人さまはともかく、しかし神さまから悪い扱いを受けてしまうのです。ですから、本当に要注意です。たかが高ぶったくらいで・・・あるいは多少傲慢になったからといって・・・と思うかも知れませんが・・・しかし神さまからは結構厳しい扱いを受けてしまうようですので、気を付けていきたいと思ひます。

では、高ぶったり、傲慢になったりすることを回避するにはどうしたら良いのでしょうか？その答えとなるのが上記の「**謙遜を身に着けなさい。**」のことばです。細かい話で恐縮ではありま

すが、KJV訳では「卑下する」とも訳されています。ちなみにこの世の中において、「卑下しましょう！」なんていう風にスローガンを掲げたり、おすすめている、なんていうことは皆無に等しいのでは？と思ひます。けれども聖書では、「卑下」することをおすすめております。「えっ？何それ？冗談でしょ?!」と反発したくなると思ひますが、しかし、そうするなら、「恵み」が与えられる、ということを言われています。ちなみに「卑下」とは、辞書に「**実際よりも自分を卑しい者と思ひ、見せること**」とありました。これって何だか自分が無くなるみたいで嫌な感じがしますが・・・けれども聖書はじつに逆説的でありまして、こういう姿勢でいるときに、神さまから「恵み」をいただけるのです。すごいですよねっ？！

「傲慢」ということばに関連して、ある牧師さんの書かれた本の中に、「傲慢になったらいけません。傲慢になるとイエスさまを失ってしまいます。イエスさまが共にいてくださらなくなるのです。」とあるのですが・・・このことは、「**神は高ぶる者に敵対し(KJV訳:抵抗する、無視する、撃退する)**」と同じことを言われているのでは？と思ひます。・・・ゆえに傲慢になってしまうときに、このことばが悪い意味合いで振りかかってしまのでは？と思ひますので、ぜひ、気を付けていきたいと思ひます。よろしければ、このようなことをご理解いただけると幸いに思ひます。



へりくだるなら、イエスさまは共にいてくださる

キリストを信じた体験談:信じてからのこと フィベ

今から20年近く前、キリスト教に批判的な私が夫の転勤で米国生活を過ごす間に洗礼を受けました。受洗して暫く、目に映るすべてのものが新鮮で、平穏な教会生活を送っていました。ただ、キリストの十字架の意味、キリストが人間の為に十字架にかかり罪を贖い、無罪としてくれたことは、言葉の上での理解だけでした。私に罪?自分の罪ということに実感がわかないまま半年が過ぎました。

夏休みも近いある日、幼稚園から帰宅した息子が食事中、突然苦しみだしました。顔色も悪くただ事ではない気がしたので、かかりつけの医院に連絡をしました。間が悪いことに長期休診でした。時間も遅く、近くの救急窓口ある病院に行き、何も問題は無いと診断されました。診断を信じ暫く様子を見ることにしたのですが、2日後高熱が出て容体は急変しました。再度、救急病院に行き検査したところ、咽喉に歯の矯正の金属片が刺さっており、危険な状態でした。深夜急きょ医師を呼び出し、緊急手術をしました。突然のことで言葉もなく、ただ祈るばかりでした。

手術は無事終わりましたが、重症のため翌日は、専門の大きな病院に移らなければなりません。しばらく入院が必要で、夫と交代で毎晩病室に泊まりました。教会の人たちが祈ってください、生活面でも上の子どもの面倒を見てくださり、食事の差し入れなどをして支えてくださったのは、本当にありがたいことでした。

容体が落ち着いた頃、牧師夫妻と牧師の知人の韓国の老牧師が病室に来てくださいました。息子の為のお祈りの後、初対面の老牧師が一言「このことはあなたのことの原因です。」と言われました。その言葉の意味が理解出来ず、呆然としていました。日本語がよく分からない人で、おかしい言葉になったのかとも思いました。その日、私が付き添いで病室に泊まっていた。昼間に言われた言葉を思い返し、不可解な気持ちで眠れませんでした。ふと手術の前日のことを思い出しました。金属が刺さったことが判らないまま苦しい状態の息子にしたことや、自分の思い通りにならない息子に怒りを覚えてイライラし、酷く当たり飛ばしていたのです。残酷で自己中心な自分。夫に対しても、彼も病

院の付き添いをした上、昼間は会社で仕事をし疲労困憊なのだと考えず、自分の辛さばかりを訴えていました。思いやりのない自分勝手な人間だと、愕然としました。自分の内にある罪を思い知りました。キリストが罪の贖いをされたということは、私自身の為でもあったと自覚した夜でした。神さまは私を悟らせるために、これらのことを起こされたのだろうか・・・。

【聖書箇所】詩篇119:72

119:72 苦しみにあったことは私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。

その後、息子は回復し無事退院しました。咽喉の傷跡はまだ残っていますが・・・牧師の日本語は流暢ではありませんでした。単に言葉の言い回しを間違えて使ったのかも知れません。それでもその日、私はキリストの十字架が罪ある自分のためであったと悟りました。今も不思議な気がします。どんな人でも、たとえ自覚していなくても罪を持って生きています。汚れた手では体を拭いてもきれいにはならず、さらに汚れてしまいます。同じように、自分自身で罪を解決し、清めることなど出来ません。人間の罪をイエス・キリストがすべて引き受けてくださったことは真実です。

【聖書箇所】ヨハネの福音書3:16

3:16 神は実にそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちをえるためである。



病院での出来事を通して、悟りを得た

聖書に関する偉人のことば:チャールズ・ディケンズのことば/お知らせコーナー

<聖書と偉人>

一九世紀イギリスの小説家。「クリスマス・キャロル」「オリバー・ツイスト」などの代表作がある。



新約聖書は、この世界でいまだかつてなかった、また、今後もあるとは思えぬ最善最良の書である。

<お知らせコーナー>

●聖書贈呈プレゼント！聖書通信講座！

月刊バイブルお読みになっていかがでしたか？少し、聖書に興味がわいてきましたでしょうか？このたび、当教会では聖書贈呈、プレゼントを行っています。この機会に聖書をあなたも読んでみませんか？また、ご希望の方には、聖書通信講座も開設しました。申込者全員へ、贈呈可能です。ご興味がありましたら、ぜひ、お申し込みください。

以下を記載の上、mail:truth216@nifty.com もしくは fax:020-4623-5255 もしくは tel:042-364-2327 へ連絡ください。

- (1) 聖書贈呈に申し込みます。
 - (2) 聖書通信講座に申し込みます。
- *ご希望の番号に○をつけてください。(複数可)

郵便番号:
住所:
名前:



見本

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日/午前 10:30-12:30,午後 14:00-16:00
場所:東京都、京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館 (tel:042-360-3311)
1F のエレベーター脇の部屋表示板で、「レムナントキリスト教会」の部屋を確認ください。
どなたでも来会歓迎、入場無料です。tel:042-364-2327, mail:truth216@nifty.com

★教会のHPもあります。

ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス

<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>

☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家

<http://87494333.at.webry.info/>

☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋

<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>

☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風

<http://whattopics.at.webry.info/>